

ほほいざい

M A G A Z I N E

vol.5

2018年9月



古くから地域経済を支え続ける貴重な地場産業「泡盛」

琉球王国時代から受け継がれてきた泡盛は、製造業の比率が全国の約5分の1と少ないここ沖縄の貴重な地場産業です。大切に受け継がれてきた泡盛は、伝統を守りながら時代と共に成長を続け、世界へ羽ばたこうとしています。

琉球泡盛の歴史

琉球泡盛は、かつて東アジアの交流拠点として栄えた琉球王朝時代に製法が確立されました。日本最古の蒸留酒として約600年の歴史を誇り、九州の焼酎の源流も沖縄の泡盛にあるといわれており、黒麹菌のみの酒造りを行っている地域は、世界的にみても非常に珍しく、ここ沖縄県だけといわれています。

十八世紀から十九世紀頃の琉球王国での泡盛造りは、王府が管轄し、首里の三箇（赤田・崎山・鳥堀）とよばれる限定した地域でのみ行われ、わずか40人の職人に泡盛造りを命じ、泡盛造りの原料である米や粟は王府から支給され、製造に必要な蒸留器は、製造後には返納し、銭蔵という場所 で保管するなど、王府による徹底管理が行われてきました。

琉球王朝時代、泡盛は外国の来賓をもてなす国酒で、1853年黒船で来航したペリー提督一行も琉球の晩餐会に招待された際、これまでこの島で味わった酒と比べてはるかに芳醇。まろやかに熟し、フランスのリキュールに似ていた。この記載も残されています。

泡盛業界のいま

世界的にも珍しい製法をもち、琉球王国時代から大切に受け継がれてきた泡盛、泡盛業界においては、最盛期の2004年度に299億円の売上げを記録以降は、若者や女性の泡盛離れ、酒類の嗜好の多様化などの影響により、約半分の程度の150億円台の売上へと減少が続いています。

しかし、各酒造所や沖縄県酒造組合などによる、伝統技術の継承はもとより、近年では新たな創意工夫や地道な努力による、魅力ある商品開発も進められています。また、観光客や若者、女性客をターゲットとして今年4月に開催され、多くの来場者により大盛況だった第1回「島酒フェスタ」の開催など需用拡大に向け様々な取り組みを展開しています。

ワンや琉球泡盛やんどー



開発された商品の中には、オーク樽で長期熟成されたバニラのような香りと深い甘さ、琥珀色の色合いが特徴の久米仙酒造製造G.E.M（ジエム）2017那覇市長賞最優秀賞など魅力的な商品も生まれています。

さらに「泡盛マイスター協会」や「泡盛力」クテル推進協議会などによるクテル開発普及促進により、新しい飲み方の提案や、消費拡大への取り組みなども進められています。

また、国事業の琉球泡盛海外輸出プロジェクトにより、ウォッカ、ジン、テキーラ等と並ぶ世界的な「ハードリカー」としての可能性が秘められている泡盛を、北米、欧州の市場へ浸透を図るため、ターゲットを絞ったプロモーションを進めています。さらに、中国市場に向けても、中国で親しまれている白酒を意識した海外展開の準備を進めるなど、泡盛の認知度向上に向けた取り組みが今年から始まり、新たな販路開拓の取り組みも進められています。

本号では、芳醇な味と香りを持つお酒としての価値に加え、世界的に珍しい製法と歴史的価値を持つ泡盛。県内の地場産業として大きな可能性をもつ泡盛産業にスポットを当てて紹介いたします。

また、県内46の酒造所のうち、那覇市の8酒造所と「泡盛マイスター協会」、「泡盛力クテル推進協議会」の取り組みもご紹介いたします。

NAHA FRONTIERでは、創業63年目、常にお客様目線で発展し、ユニークなテレビCMでもおなじみの沖縄銀行の山城正保頭取のお話しをご紹介します。

島酒フェスタで魅力発信 仕次ぎ文化も継承へ



先般、沖縄セルラーパーク那覇において、沖縄県、那覇市との共催により、第1回「島酒フェスタ」を開催しました。

泡盛業界では、販売促進策の一つに、「女性や若者をターゲットにしたイベントの開催」を掲げており、その開催を模索してきたところ、青年部が主体となり、関係各機関や関係者のご理解とご支援を得て、これまでにない大きなイベントとなりました。島酒フェスタには、41酒造所が参加し、また、46酒造所全ての泡盛が試飲できるとあって、2日間で約12,000人が来場しました。

「夏を先取り！ゆかたでほろ酔い」のキャッチフレーズに、期待していた女性や若者が多く訪れ、泡盛の作り手の思いや商品へのこだわり、地域の特色など、それぞれの泡盛の魅力を感じてもらった機会を提供できたと思っております。

また、今年度は、沖縄国税事務所、沖縄県工業技術センター、卸売・小売酒販組合連合会などとの共催により、仕次ぎ古酒・秘蔵酒コンクールを開催しました。

古酒を育てる伝統的な技術である仕次ぎを実践している方々から泡盛を出品していただき、香りや味わいなどを審査し、優れた古酒を育てた方に感謝の意を表すとともに、仕次ぎ文化の啓蒙を目的に行われたものです。感謝状贈呈式では、泡盛をこよなく愛し、情熱を持って仕次ぎに取り組んでいる方々に深い感銘を受けると同時に、大変心強く思った次第です。女性や若者をターゲットにした島酒フェスタや伝統的な仕次ぎ文化を重んじる仕次ぎ古酒・秘蔵酒コンクールを契機として泡盛の需要拡大につなげていくことを願っています。



沖縄県酒造組合 会長 佐久本 学

NAHA AWAMORI

泡盛業界の新たな取組み

泡盛マイスター協会

泡盛マイスター協会は、泡盛の特徴を的確に伝えられるプロの人材を育成する目的で設立されました。現在、国内においては、ワインの「ソムリエ」等の呼称資格があり、それぞれの研究と広報活動により、その商品の認知度及び販売促進の一役を担っていると言われています。

平成18年11月沖縄県泡盛マイスター認証制度が制定され、アルコール飲料に関する日本初の公式認証となった泡盛マイスターは、銘柄ごとの味の違いや歴史、料理との相性やテイスティング、製造方法や医学的効果、酒類全般等に精通した総合的アドバイザーを目指しています。認証試験及び認定試験に合格した人に「泡盛マイスター」及び「泡盛アドバイザー」の称号を与え、的確な表現で泡盛の説明やアドバイスをすることで、泡盛の一層の普及拡大につなげていきます。

県内においては、顧客サービスの向上に生かすため、スタッフの泡盛マスター取得を支援する小売業や飲食業、酒造会社などが増えています。昨年12月時点の資格保有者は、国内632人、海外440人、計1072人となっており、地場産業である泡盛業の振興に貢献しています。今年7月には韓国ビバレージマスター協会と泡盛マイスター認定講座「琉球泡盛学」を開設することで業務提携しました。受講生が泡盛を使ったカクテルを学ぶことで、韓国と沖縄の懸け橋になることが期待されています。



泡盛カクテル推進協議会

平成28年9月に沖縄県酒造組合、泡盛マイスター協会、日本バーテンダー協会、飲食経営者などで組織する組合など、県内8つの団体により「THE泡盛カクテル推進協議会」が設立されました。

おいしく誰でも簡単に作ることができる泡盛をベースとしたカクテルレシピを考案し、飲みやすいカクテルにすることで、親しみやすい新たな泡盛の魅力を発信していくことを目的としています。



THE泡盛カクテル推進協議会が開催した「泡盛カクテルレシピ選考審議会」では、泡盛カクテルレシピの一般公募による、133件のなかから「ゴーヤーを使ったカクテルがグランプリを受賞しました。その後平成28年11月1日（泡盛の日）に一般公募874件の中から「58 KACHA SEA」というネーミングに決定し、沖縄を代表する泡盛カクテルが誕生しました。泡盛は糖質、プリン体がゼロで、低カロリー、また、血液サラサラの血栓溶解酵素が含まれており、ビタミンCが豊富なゴーヤーとカクテルにすることで、美容や健康への効果も期待ができます。現在、「58 KACHA SEA」は、ホテルの 레스토랑やバーで飲むことができるそうです。今後は、泡盛カクテルのさらなる普及を図ることで、泡盛の消費拡大を目指します。

市内8つの酒造所紹介さびう。



1918年創業
有限会社 識名酒造
代表者 識名 研二
那覇市首里赤田町
電話：098-884-5451

■名前の由来／創業者の名前が酒造所の名称です。

今年で創業100年の節目を迎えることができました。黒糖酵母を使用し、新酒でも風味豊かなまろやかな味わいが特徴で、代表銘柄は「時雨（しぐれ）」です。若い人に関心を持ってもらうための販路開拓を進めて、今後、地元沖縄での「時雨」の知名度を上げていきたいと考えております。



1848年創業
瑞穂酒造株式会社
代表者 玉那覇 美佐子
那覇市首里末吉町 電話：098-885-0121

■名前の由来／泡盛の原料である米にちなみ、瑞々しい稲穂の豊作を願って名付けられています。

首里最古の蔵元として創業。酵母分離開発のできる新技術と、貯蔵方法として唯一、地下タンクがあります。そこでできた黒糖酵母仕込み泡盛「美ら燦々」30度はおすすめ商品。販路開拓は問屋や酒販店からの情報収集や各開拓先のニーズに合う商品を選択提案し、集客力を高めるコラボ企画等を行っています。



1902年創業
咲元酒造株式会社
代表者 佐久本 啓
那覇市首里島郷町
電話：098-884-1404

■名前の由来／創業者の「サクモト」の名前から「サキモト」へ。「咲」は方言で泡盛、「元」は原点として、泡盛の味の原点を守り続けるという意味を込めています。

濾過を最小限にする「粗濾過原酒」にすることで、古酒成分を残した昔ながらのクセはあるが味わい深い酒造り。大量生産せず、お客さまと直接触れ合い、納得いく形で買っていただけるような店舗開拓を進めています。納得いくまで時間をかけ、職人の手作業により昔ながらの味わい深い泡盛を目指します。



1887年創業
瑞泉酒造株式会社
代表者 佐久本 学
那覇市首里崎山町
電話：098-884-1968

■名前の由来／「瑞泉」それは首里城内に今も残る龍樋をかたどった泉。その美泉にあやかり命名しました。

首里城内にある龍樋をかたどった泉「瑞泉」より名付けられた社名で、伝統を守りつつ新しいチャレンジを続けています。これまで泡盛を口にしたことがない方や、苦手意識のある方へも美味しく飲んでいただけるようリキュールの開発も進め、感動を与える泡盛を県内外はもとより世界に発信していきます。



1946年創業
宮里酒造所
代表者 宮里 徹
那覇市小祿
電話：098-857-3065

■名前の由来／創業者の名前宮里が酒造所の名称です。

宮里酒造所の春雨は現代表が作った詩古くも 香り高く 強くも まろやかに からくも 甘い酒、春雨に酒質の全てが込められています。泡盛の長い歴史と、受け継がれてきた伝統をもとに、時代の要請に応えることのできる泡盛をうみだしていきたいと考えています。



1898年創業
株式会社 津波古酒造
代表者 津波古 草
那覇市与儀
電話：098-832-3696

■名前の由来／創業者の名前が酒造所の名称です。

原料米にじっくりと麴を育ませ、出来立ての新酒は濃厚で甘く、古酒は柔らかな甘みとまろやかなうまみが味わえます。毎月第4金・土曜日の感謝祭では、特別な古酒の試飲、販売、古酒造りの相談等もを行っています。新酒の飲みやすさよりも、どのような古酒に成長するかにこだわった泡盛造りを行っています。



1952年創業
久米仙酒造株式会社
代表者 比嘉 洋一

■名前の由来／創業者が久米島出身であることからこの社名になりました。

一歩進んだ泡盛造りとして、既成概念にとらわれずチャレンジすることを心がけ、沖縄の宝でもある「古酒」の普及に努めたいと考えています。現在、東京に支店を置き、タイムリーな営業展開を進めています。イチオシは古酒ゴールド、ブラック古酒。



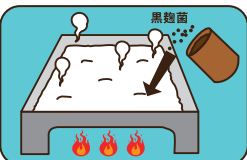
1976年創業
沖縄県酒造協同組合
代表者 大城 勤
那覇市港町
電話：098-868-1470

■名前の由来／組合員が生産する泡盛を仕入れ、長期貯蔵。良質の「古酒」を県外に安定供給することを目的に泡盛製造業者46人全員参加して発足。

組合員から泡盛を仕入れ、長期貯蔵し、良質な「古酒」を県外に安定供給することを目的に、県内の泡盛製造業者46人全員参加して発足。酒の専門家によって品質を厳しくチェック。誕生したのが「海乃邦10年貯蔵古酒」です。引き続き、全国津々浦々で泡盛の魅力が伝わるよう取り組んでいきます。



泡盛の製造工程



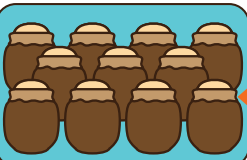
洗米・浸漬・蒸し タイ米を洗って水に漬け、水分を吸収させ米を蒸します。



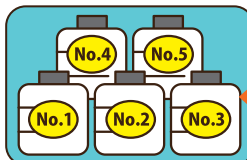
仕込み 40℃に冷ましたタイ米に黒麹菌を混ぜ約2日で米麹に。



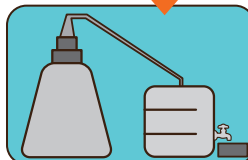
もろみ 米麹に泡盛発酵酵母と水を加え、もろみタンクで約2週間発酵。



容器詰め 長期貯蔵された泡盛は瓶詰、壺詰など各容器に詰められ、全国の皆様のお手元に届けられます。



熟成 原酒をタンクや甕で半年から1年熟成。味や香りを豊かにします。



蒸留 発酵したもろみを単式蒸留機で蒸留し原酒が完成。



瑞泉酒造株式会社 仲栄真 兼昌さん

泡盛の製造に携わり34年目となる仲栄真兼昌さん。20年前から工場長を務め、伝統的な泡盛の文化を守りながら、消費者のニーズに応えようとスパークリング泡盛リキュールなどの新しい商品も開発しています。「平成3年に機械を導入したが、どうしても人の手による作業が必要。泡盛造りは、生き物（酵母）が相手だから、1日も休めない。製造に携わる3人で交代しながら、一ヶ月あたり約3万リットルの泡盛を製造しています」。首里三箇であるこの酒造所で泡盛を造り、代々受け継がれてきたその技術を後輩に伝えていくことを誇りに仕事に取組んでいる仲栄真さんは「私たちが真心想めて作った泡盛を、祝いの席や飲食店などでお客様が楽しそうに飲んでいる光景を見たときが、最高にうれしいですね」と笑顔で話してくれました。

お仕事紹介

多様化するニーズと地域の期待に対応。グループ総合力で経済を活性化

昭和31年に地元経済界の後押しを受け創業、「親しみやすい銀行、郷土の発展に貢献する銀行」の創業精神のもと「お客さま目線」で県民に一番愛される銀行『ヒープルズバンク』として地域社会の発展に寄与している沖縄銀行。創業63年目となる今年、第10代頭取に就任した山城正保さんに伺いました。



PEOPLE'S BANK

沖縄銀行
 やましろ まさやす
 頭取 山城 正保さん

お客さまとともに未来を創る
Create the Future

沖縄銀行では、「常にお客さまの利便性向上を図り、地域社会とともに次世代へ繋ぐ持続可能な未来を創造するステージを目指したい」と、2018年4月から第18次中期経営計画「くお客さまとともに未来を創る>Create the Future」をスタートさせました。

沖縄県全体が潤う経済を目指す

経済の現状を直接目にする金融業からみえてくる沖縄県経済の今について伺いました。

で、『安心』を提供し、選ばれる銀行を目指
す。お客さまファーストという基本を大切
に、金融業界のめざましい変化に対応して
いきたい。」と話してくれました。

「これからは相談業務が非常に重要。これまでも技術革新や業務改革などを通して直接お客さまと接する営業店の人材を約1.5倍に増やしてきました。スピード感ある融資や担当者の親しみやすさなど、お客さまの期待を超えたサービスを提供すること

しかし、産業振興は地域によって格差があるように感じています。人口増加についても、同様で、那覇市を中心とした地域は伸びていますが、周辺の小さな有人島は、過疎化が進んでいます。そうではなく、沖縄

地域に密着した中小企業支援

縄全体がまんばく潤うことが大事であり、地方創生という意味からも、今後は、各地域の特徴を活かした産業の振興を図ることが重要だと考えています。」

沖縄銀行では、地域に根差し、地域経済の発展に寄与する金融サービスとして県内中小企業の支援にも力をいれています。

一沖縄県の事業法人は約98%が中小企業で、そのほとんどが戦後に創業されたものです。戦後復興の貧しい時代に事業を立ち上げた

創業者が、今後2代目、3代目と引き継いでいくのですが、『後継者不在』の企業が多数を占め、後継者不在率は全国と比して沖縄県が一番高く、企業の従業員や事業スキルの承継を行う事業承継やM&Aは非常に重要になります。当行でも、事業承継やM&Aといったコンサルタント業務にあたる人材の質向上を図り、現在、M&Aシニア

エキスパートの資格取得者は全国の地方銀行で最多の135名です。事業承継は、どの企業も潜在的に抱える課題ですが、「承継する」というのは、マイナスのイメージがあり、なかなか口に出しにくく相談しづらいというのがあるようです。当行で実施しているセミナーなどを通じ、事業承継に関するイメージ改善を促しながら、お客さまが親しみやすく様々な相談に応じることができる体制の強化など、環境づくりに積極的な取組んでいきたい。」

その他、積極的に取り組んでいる中小企業支援があります。『三行では平成22年〜平成24年にかけて開催した『おきぎん美ら島商談会（食の商談会）』や今年で6回目を迎える『沖縄大交流会』のサポート



人材育成と地域貢献

山城頭取は、「企業は人なり」の言葉のとおり、人材育成に重きを置いた経営資源の投下が今後の将来において重要と考え、積極的に取り組んでいると話します。

「休職中の行員が抱える復職後の業務への不安を軽減し、離職率を抑える取り組みや、働き方改革として、業務の効率化、機械化を進めることで残業時間を減らしています。疲れた体で朝を迎えてもいい仕事はできない。実際、短くなった労働時間でも生産性は向上しています。」

また、地域の人材を育てる取り組みとして、県内初の『リーガル・アシスタント制度』を平成19年度から採用しました。これは、琉球大学法科大学院の修了生を沖縄銀行で採用し、法務業務などの実務を担わせ、給料を支給しながら司法試験合格への環境



新たな金融サービスとは？

オープンAPIとは、銀行と予め契約を結んだ企業間との安全なデータ連携を言い、それを導入することで、お客さまの利便性が向上するものです。銀行に行かなくてもスマートフォンアプリで口座間のお金の移動や、新たな口座開設も可能です。海外のモバイル決済サービスとの連携が可能となり、インバウンド対応を含めた様々なサービスの提供が可能となることで、地域における消費拡大に繋がり、産業振興の一役を担うことができると考えています。

また世界的なキャッシュレスの動きがあるなか、日本のキャッシュレス化は約20%と先進国の中で低い方ですが、金融業においてもこれからの新たな時代に向け、環境の変化に適用しながら次世代へ繋ぐ持続的なサービスを創造することで、地域社会の発展に寄与することを大きな使命とし、お客さまとともに新たなステージへ進んで参ります。」とこれからの抱負を語ってくれました。

インタビュー後の7月31日には、「SBI AI & Blockchain」ファンドへ出資するというニュースが発表されました。

このファンドは、インターネット決済や送金、投資、仮想通貨などのフィンテック企業やヘルスケア、ロボティクスシェアリングエコノミーなどの企業へ投資していく予定です。ファンドの情報を基に、県内企業とのマッチングも進めていくとのことでした。



わたしとなはし

魅力あるスマートシティ ナハ

沖縄県経済の中心は、やはり那覇市。キャッシュレス化をはじめ、密に連携することで、次世代へ繋ぐ先進的なICTを活用した未来を創造したい。

那覇市の取り組み

1 H30那覇市中小企業振興審議会の答申について

那覇市中小企業振興審議会は、中小企業団体や経済関連団体の関係者学識経験者などの専門家で構成され、那覇市の中小企業振興施策に関する事業の評価、取り組み状況のチェック、時代の変化や中小企業の実態を捉えた専門的な視点からの提言を行なう機関です。

平成30年7月に同審議会から答申を受け、これを基に、次年度の施策事業の展開について検討を進めているところです。優先的に進めるべき施策提言の主要事項は次のとおりです。

- 人材の育成・確保について
- 事業承継対策について
- 中小企業のICT導入支援
- 那覇市の特色と独自性を持った経済振興策の実施

○観光交流都市としての魅力向上

※答申全文は市HPをご覧ください。

(商工農水課 098-951-3212)



2 頑張るマチグワ―支援事業

本市では、中心商店街の活性化に向けた事業を行う商店街振興組合等の積極的な取り組みに対して、事業費の一部を補助する「頑張るマチグワ―支援事業」を実施しています。昨年度は16件の申請があり、16、822千円を補助しました。

この支援事業を利用して実施した取組の中から、今年度から自主事業として継続実施しているものを二つご紹介します。

■サンライズなは商店街

開南バス停から平和通りまで続くサンライズなは商店街は、毎月第2日曜日に、都市型マルシェ“サンライズマーケットを開催しています。農産物や加工品、パン、スイ

ーツ、クラフト、雑貨などを生産者から直接購入できるのが魅力です。また、飲食屋台やキッチンカーなどもあり、沖縄の魅力が詰まったマルシェは、多くの地元客、観光客で賑わっています。次回は、9月9日(日)開催です。



(実行委員会 金城 090-8764-9792)

■那覇市沖映通り商店街振興組合

国際通りのむつみ橋交差点からモノレール見栄橋駅までの沖映通りは、文化の発信を商店街のビジョンとして掲げ、年間を通して楽しいイベントを開催しています。7月には、日本の文化である落語に着目した「第2回沖映通りうまんちゅ落語祭り」を開催イベントの特徴は、銀行のロビーや携帯ショップ、居酒屋など、通りにあるお店を落語会場としているところです。

イベントの開催は、通りの賑わいを創出し、自然とお客様がお店に入り、雰囲気、良さを知ってもらえる好機となりました。また、子ども達に落語文化を知ってもら



おつと、近隣の小学校で出前落語講座を開催するなど、地域の方々との交流を深める工夫がなされています。その他にも商店街組合や通りが組織されており、それぞれがマチグワ―を盛り上げようと取り組んでいます。

※頑張るマチグワ―支援

事業の詳細は市HPをご覧ください。



(なはまち振興課 098-863-1750)

3 なは土産「龍柱会議」ロゴ・キャラクター使用者募集

那覇迎恩のシンボルであるCEOりゅうちゅうを議長に、各分野から選抜された代表者が集い「なは土産」を応援するための商品企画会議「龍柱会議」が始まった。そんなユニークなストーリーをモチーフに、なはを代表する観光資源7種の個性的なキモカワイイ!?キャラクターをデザインしたロゴ・キャラクターが「なは土産・龍柱会議」です。

観光都市「那覇」としての魅力発信と中小企業支援を目的として、本市に著作権が帰属する「なは土産龍柱会議」の各キャラクターとロゴの使用を随時募集しています。使用に際し一定の要件はありますが、使用料は無料で、個人使用の他、商品パッケージへの印刷など商用利用も可能です。使用には申請手続きが必要となりますので、興味のある方はお気軽にお問い合わせ下さい。

※詳しくは市HPをご覧ください。

(商工農水課 098-951-3212)



【これまでの活用事例】

マグカップなどの雑貨やお菓子、琉球泡盛などバラエティーに富んだ22種類の商品が6事業者により活用され、販売されています。



その他の商品は
こちら



データで見るNAHAcity 那覇市の中小企業IT利活用 全国との差 最大50%

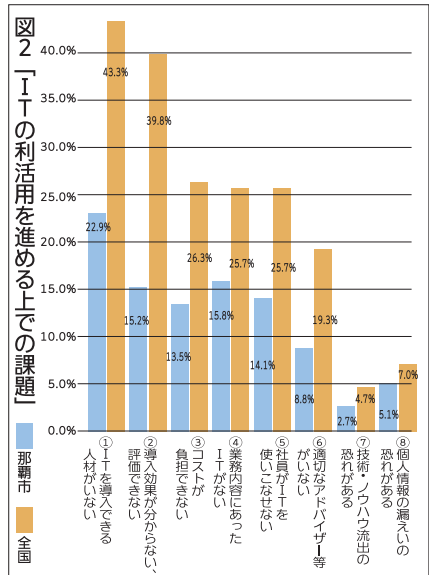
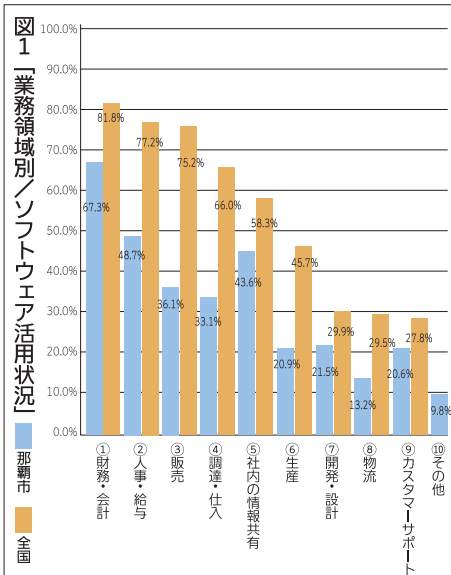
那覇市では、市内中小企業が抱える課題の把握を目的に「人材育成」、「事業承継」、「ITの利活用」など8つの分野に関する「平成29年度市内中小企業経営実態調査事業」を実施しました。

ホームページ、SNSのほか、財務会計、人事・給与などの業務ソフトウェアは、すでに多くの企業で活用されており、比較的取り組みやすい分野です。

働き方改革関連法や生産性向上特別措置法などを背景に、今後さらに中小企業のIT利活用が進むと考えられますが、図1の那覇市内の中小企業における各種業務ソフトウェアの導入は低調であり、特に「販売」業務に関する導入状況は、全国は75.7%なのに対し、那覇市は36.1%と、約50%の差が生じています。また、図2のITの利活用を進める上での課題については、効果を認識する割合が全国よりもだいぶ低い状況となっています。ITの導入により効率化できれば労働生産性が高まり、収益増にもつながります。また、インターネットを活用すれば、世界を相手にした事業展開にもつながります。

国や沖縄県においては、「IT導入補助金」や「Eコマース人材育成・商圏拡大支援事業」などを実施しています。是非、ご検討下さい！

※その他の調査結果や詳細については、市公式ホームページをご覧ください。



なはけいざい
MAGAZINE

のバックナンバーや
掲載されなかった情
報はこちら→



なはけいざいMAGAZINE
Vol.5 2018年9月発行

【発行】
那覇市経済観光部商工農水課
〒900-8585 那覇市泉崎1-1-1
TEL.098-951-3212
E-mail:k-syou001@city.naha.lg.jp

制作・印刷 株式会社 近代美術

※応募された方の個人情報、当選者への
賞品の発送以外には使用いたしません。

商工農水課なはけいざいMAGAZINE9月号
アンケート係
〒900-8585 那覇市泉崎1丁目1番1号
FAX 098-951-3213

「宛先」

Q7 「なはけいざいMAGAZINE」に対する
ご意見・ご要望をお聞かせください。(自由記入)

Q6 今号で紹介した那覇市の取り組みに
興味がありますか？番号をお選びください。

Q5 今号で紹介した那覇市の取り組みについて
知っていましたか？番号をお選びください。

Q4 「なはけいざいMAGAZINE」の
全体的な満足度を番号でお聞かせください。

Q3 今号は本誌への興味を持つきっかけと
なりましたか？番号をお選びください。

Q2 今号で興味がない記事はどれですか？
番号をお選びください。

Q1 今号で一番印象に残った記事はどれです
か？番号をお選びください。

アンケートにご回答頂いた方の中から
抽選で、景品をプレゼントいたします。

※締切は2018年9月30日(日)です。※日消印有効
※当選の発表は賞品の発送をもってやえさせていただきます。発送は2019年3月末頃の予定です。

はがき、FAX、Eメールのいずれかに、
①住所 ②氏名 ③年齢 ④電話番号 ⑤職業
を明記の上、以下の質問項目番号と、回答
番号を記入してお送りください。

アンケートにご回答頂いた方の中から
抽選で、景品をプレゼントいたします。

※締切は2018年9月30日(日)です。※日消印有効
※当選の発表は賞品の発送をもってやえさせていただきます。発送は2019年3月末頃の予定です。

はがき、FAX、Eメールのいずれかに、
①住所 ②氏名 ③年齢 ④電話番号 ⑤職業
を明記の上、以下の質問項目番号と、回答
番号を記入してお送りください。

アンケートにご回答頂いた方の中から
抽選で、景品をプレゼントいたします。

※締切は2018年9月30日(日)です。※日消印有効
※当選の発表は賞品の発送をもってやえさせていただきます。発送は2019年3月末頃の予定です。

はがき、FAX、Eメールのいずれかに、
①住所 ②氏名 ③年齢 ④電話番号 ⑤職業
を明記の上、以下の質問項目番号と、回答
番号を記入してお送りください。